



## 私とダウン症の兄が歩んできたみちのり ～家族がささえること、考えること、話すこと、伝えること～

親にとって子どもはかけがえのない存在です。障害のある子も健常のきょうだいも、みんないっしょです。どの子にも幸せな人生を歩んでほしい…と子育てし、子どもが成人した後も、親なき後も幸せな生涯を送ってほしいという願いはどの親も同じことでしょう。

しかし親なきあとについて、自身の葬儀や相続、遺言、障害のあるこどもの成年後見制度などなど漠然とした考えや思いのまま、日々が過ぎている人が大半ではないでしょうか。

この度は、ダウン症のお兄さまをきょうだいに持つ正木健氏より、きょうだいやご両親の介護からご逝去までの大変なご苦勞をされたご経験から、今のうちに、親たちが、きょうだいがしておくべき大切なことなどをお話しいたします。

正木氏は、現在、立川市社会福祉協議会に就業される傍ら、ケアラー（病気や障害などがある家族のケアをしている人のこと）支援団体にも属し、ご自身の様々な経験を活かしながら支援活動をされています。親御さんやきょうだいの立場、支援される側の方にも、ぜひ聞いていただきたいお話です。

ひとりっ子の親御さんにとっても将来に向けての準備等、参考になることと思います。いつか迎える親なき将来に備えて、家族が元気なうちにしておくべきことを改めて学びましょう。

**日時** 2021年11月30日 火曜日 10時から12時

**場所** 立川市総合福祉センター 2階 視聴覚室

**講師** まさきたけし  
正木 健氏

**定員** 30名

**会費** 無料

**申込み** 立川市手をつなぐ親の会 ホームページお問合せフォーム →



・当日のご参加が難しい場合は**後日** YouTube 配信（希望者限定）も予定しております。

ホームページお問合せフォームよりメールアドレスと「**後日** YouTube 配信希望」と記載の上、お申し込みください。

ネット視聴が難しい方は収録 DVD をお渡しすることもできますのでご相談ください。

### <プロフィール> 正木 健氏

1966年東京生まれ、妻と二女二男、8才違いの兄がダウン症のきょうだい 2008年に父が亡くなり、翌年に軽度認知症の母と兄との二世帯同居スタート 兄の熱中症、グループホーム入所、母の介護が本格化し、母と兄の介護保険利用 2015年年明け早々に母が入院。「介護」離職を決意。その年の夏に母が亡くなる その後地元の社協に非常勤職員（地権の生活支援員）として1年半勤務 2017年に社会福祉士資格取得、社会福祉専門職として就業スタート 2019年精神保健福祉士取得 2021年4月兄が老衰で逝去 現在、社会福祉法人立川市社会福祉協議会にて就業中 その他の活動について 日野市保育問題協議会役員 若年性認知症当事者と家族の集い「芽吹き」運営委員 一般社団法人ケアラーアクションネットワーク（通称 CAN）会員 東京社会福祉士会自殺予防ソーシャルワーク委員会委員